

本当の教えに出会うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

# 無碍の一道 第82号

発行 2022年3月7日  
発行者 浄土真宗本願寺派 長尾山天龍寺  
住職 天野英昭  
739-0147 東広島市八本松西 6-10-1  
Tel・fax (082) 428-1360

## 春季彼岸会並びに永代経法座

日時 3月23日(水)

ご講師 堀 靖史師(志和東 光源寺住職)

朝席 9時～11時頃

昼席 13時～15時頃

## 第114回歎異抄輪読会

日時 3月17日(木) 14:00～15:30頃

ご講師 松田正典先生(広島大学名誉教授)

費用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

## ★ 磯松天龍寺墓苑合同墓春彼岸法要

日時 3月21日(月)15:00～16:00

※ 大変お忙しい時期とは存じますが、多数のご参拝を念じ申し上げます。  
但し、天龍寺墓苑合同墓での参拝は、関係者の方のみとさせていただきます。

## ダーナ募金活動のお礼

昨年同様に、ダーナ募金活動にご協力・ご支援等を賜りました事、書面をお借りしまして厚く感謝申し上げます。ご寄付いただきました浄財は、仏教婦人会総連盟事務局を通じてユニセフ、あしなが育英会等また災害見舞金に、志和、八本松地区の福祉施設等に寄付をさせていただきますことをご報告させていただきます。

## 天龍寺仏教婦人会 追悼法要法座のご案内

日 時 4月10日(日) 13:00～15:00 頃

ご講師 伊川 大慶 師(三次市 西覚寺副住職)

※ 毎年、天龍寺仏教婦人会法座には、演奏会を行っておりましたが、未だコロナ禍が終息しない  
め演奏会は中止をさせていただきますことご理解をいただければありがたいと存じます。

### 父の思い出

今から振り返りますと私が物心ついた頃から、子供なりにいつも父との距離感があったと思います。父は、太平洋戦争末期、旧制崇徳中学校時代に広島市内で原爆に会いました。よって同級生の多くは8月6日に亡くなっております。

私が、幼少時にそのときの様子を父は「原爆に会い、火傷を負っている中でも、元寇の時のように神風が吹くと真剣に思っていたそうです。しかしながら神風も吹かず、太平洋戦争は、日本の敗北で幕を閉じます。故に教育の恐ろしさ、教育の必要性を痛感した。」と度々語ってくれました。

今まで信じていたことが全て崩れ「何が本当で、何が真理なのか。」という問いが自分の中で生まれ、寺の長男として生を受けながら、その当時としては珍しく仏教ではなく、哲学を大学で専攻したことです。

しかし顔にケロイドの跡が鮮明に残る姿で京都駅に降りますと「化け物が来た。」と言って周りの人が走って逃げて行ったとも語ってくれたことがありました。

それ故に父の人生、生きる原点には常に原爆・戦争の体験があったと近頃考えることがあります。そのような生き方をしていたために、私に映る父はいつも「凜」とした姿でありました。このことも含め、子供ながら父との距離感を感じていたのかもしれない。

大学を卒業し、教員になり自らの経験を踏まえ、戦争の悲惨さ等を常々教え子に言っていたと父の教え子の方から何度も聞いたことがありました。

何歳になっても誠実・実直な父であり、そのような生き方をしてきた父を持ち、父と子として長きに渡りご縁をいただいたことを本当にありがたく思うことです。

父は、令和4年1月17日に93歳でお浄土に還らせていただきました。生前中には、みなさまには大変お世話になりましたこと書面をお借りし厚く感謝申し上げます。

さらにコロナ禍の中で本葬の日時変更、準備等にご尽力をいただいております天龍寺総代様、天龍寺仏教壮年会様、天龍寺仏教婦人会様、宗吉北区2班のみなさま、近隣の方々、さらには平安祭典のみなさまにも重ねて厚く感謝申し上げます。

父の本葬の日時は、次の通りです。ご報告とさせていただければありがたいと存じます。

### 誠実院釋昭文 俗名 天野昭文 本葬のご案内

1 日 時 令和4年3月27日(日)13:00

2 場 所 天龍寺本堂にて

3 備 考 本葬当日は、駐車場に関しまして、新明和様の駐車場をお借りしておりますので、ご参詣をいただきます方には、ご利用をしていただければと思っております。